

令和 2 年度

学校評価

(最終まとめ)



千葉県立東葛飾高等学校 全日制の課程

令和2年度 「学校評価結果最終まとめ」 千葉県立東葛飾高等学校 全日制の課程

領域	重点目標	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価 (開かれた学校づくり委員会からの意見)	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善策)
学校経営	<p>1 安全・安心な教育環境づくりの徹底と健康意識の醸成</p> <p>○危険回避のため自己で防衛する力を養う。安心、安全な学校環境作りの徹底</p> <p>2 地域・保護者との連携の充実</p> <p>○開かれた学校づくり委員会を活用し、小中学校への出前講座等を活性化させる</p>	<p>○回答方法を保護者（紙のまま）以外「Forms」に変更した。回収が可視化できないため督促できず、回収率が低下した。保護者は83.1%で2%上昇した。</p> <p>○コロナ禍に関し「予防衛生」「学習支援」の観点から、三者に共通して2間増やしたが、各70%～96%の範囲で肯定されていた。</p> <p>○学校経営の達成を図る項目に関しては、経年比較を見たところコロナ禍の影響が最も反映されていたようである。HPの伝達に関する評価は微増ではあるが三者に共通して上がっている。</p> <p>○防災に関する活動が余儀なく中止された中で防災・安全に関する項目は肯定率を下げた。</p> <p>○「本校に入学して良かった」生徒96%、保護者95%の肯定率。困難な時代の中にありながら、前年比増となっている。</p>	<p>○今後を考えるとFormsへの切り替えは妥当。回収率の向上に向けて方策を考えて対応していきたい。教員の回答率は100%を目指す。</p> <p>○学校経営（行事、広報、環境衛生等）の項目はコロナ禍の影響が回答に反映した。この社会状況が続くことも視野に入れて、リモート化の一層の推進等による新しい対応が必要だろう。</p> <p>○本校らしさを、社会の現状や、その時々課題の中でも発揮していく。</p> <p>○県教委の通知や指導に沿いながら、今後とも意識の変化を醸成する。リモートの推進を好材料に導いていく。</p> <p>○コロナ感染対策は今後も続くと思われる。教員の労働の負担を軽減しつつ、いかに必要な実績をあげることができるか、方法を模索する。</p>	<p>○教職員のアンケート回答率が低い。</p> <p>○業務の効率も大幅に改善が見られるが、引き続き業務量の改善に努めて欲しい。</p> <p>○災害多発の時代にあつて、防災意識の向上は、将来の社会リーダーとして必要。更に教育を推進して欲しい。</p> <p>○困難な時代にあつてカリキュラムを守ることでも大変と思う中、子どもの安全、命を守り感謝している。</p> <p>○地域交流（祭りや疑問などのボランティア）の推進を評価している。</p>	<p>○新たなFormsによる回収方法を浸透させ、保護者にも広げることを目指す。その中で高い回収率を維持する。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策によって生み出された教育観や学校のあり方を精査し、必要とされる「新しいかたち」を様々な教育活動に取り込んでいく。</p> <p>○精神的、文化的な本校らしさと、求められている成果や結果との整合を図りつつ、学校のあり方を模索する。</p> <p>○業務の精選、業務効率の向上を目指す。</p> <p>○地域等への情報発信と交流を継続、推進していく。</p>
学習指導	<p>1 中高一貫教育重点校としての強みを生かした「深く高度な学力」育成</p> <p>○総合的な学力育成及び難関校対策・新入試制度対策も含め学力向上に寄与</p> <p>2 働き方改革につながる自己研鑽と教員相互の錬磨による「授業力の向上」</p> <p>○思考力・判断力・表現力を高め難関校入試や大学進学後の学びにも対応するため、学力向上委員会を中心に指導力向上のための研修会企画運営し、通年の教育活動につなげる。年間を通じてメリハリのある計画的な研鑽のあり方を研究する。</p>	<p>○教育理念に沿った「学力・人間力・教養」「グローバル化」を高めることへの評価は、教員・生徒・保護者とも「学力・人間力・教養」において肯定率が80～90%以上。「グローバル化」では50～60%に止まった。</p> <p>○教員自身の授業実践に対する肯定率89%、生徒からの授業実践への肯定的評価76%。「学習評価（成績）の適切さ」には生徒92%、保護者93%の高い肯定率である。</p> <p>○コロナ禍により臨時休校を余儀なくされた期間があるが、HPを活用した課題配付及び自校でのオンライン学習機能を構築すること等で学習保障と支援を行った。オンラインに関する職員研修6回実施。コロナ禍での学習支援に対する新設問の肯定率は、教員96%、生徒75%、保護者70%だった。</p> <p>○生徒が「授業を大切にしている」という肯定率は84%で3年連続して伸びている。保護者の「安心して学べる環境」への肯定率は初めて90%に届いた。</p> <p>○働き方、業務精選に関しては、教員、保護者ともに数値を前年比10%以上伸ばした</p>	<p>○授業の実践のみならず、様々な教育活動を通じて、教育理念が教員、生徒、保護者に共有され浸透していると実感できる。その一方で「グローバル化」という観点の視座を明確化することが必要か。</p> <p>○併設中学校から内部進学してきた生徒や保護者の学習観と、高校受験を超えてきた生徒や保護者の学習観に差異が見られることもある。中高で施設設備にも差があり、また大学受験との学術的な兼ね合いもある。</p> <p>○今後も活用できるオンライン学習機能を構築したが、情報担当教員が入れ替わっても存続できる汎用性を確立していくことが肝要。また、技術的には日進月歩であり、よりよく活用するための研鑽も必要だろう。また、教室で日常的に行う授業とのすみ分けも肝要。</p> <p>○大学受験への取り組みを含めて、学校での学習に対する生徒と保護者の「期待」は高まっているようである。補講等、教員はこれに応える取り組みにも適切に対応する努力をしている。</p>	<p>○コロナ禍においても学習支援が適切に行われている点は努力と工夫が見える。生徒の84%が学力を高めていると感じていることは素晴らしい。</p> <p>○自粛、規制の中で積極的な活動は薄らいだとしても、「学力・人間力・教養」をバランスよく身に付けさせる努力は怠っていない。</p>	<p>○「学力・人間力・教養」の3本柱が理解されている背景を生かし、「グローバル化」教育の理念の共有と、具体的教育活動のあり方を方向付ける。</p> <p>○併設中学校との教育設備の違いは埋めがたいが、双方の教員が学力向上委員会主催の「互見授業」や「共通研修」等をおとして、互いの課題を認識し合う意思疎通を進める。</p> <p>○オンライン学習機能について、情報担当教員が入れ替わっても存続できる汎用性を確立していく。</p> <p>○生徒や保護者の、大学受験を含めた学習体制への「期待」に応じる中で、授業準備や補習等と教員個人の労働時間とのバランスを図ることを目指す。</p>

生徒指導	<p>1 時代や社会の変化に対応できる「逞しく規律ある生徒」の育成</p> <p>○部活動、生徒会活動、行事等で逞しく、かつ規律正しい生徒を育てる。</p>	<p>○生徒の「倫理観(86%)・ルール・マナー(94%)など高い自己評価があり、保護者においても子どもの「規範意識」に95%の肯定的回答。教員からも2年前には50～60%台だったものが、80%を超す高評価となっている。</p> <p>○生徒のHRや部活動等の積極的参加意識も80%を超し、保護者の行事や部活動への肯定率も90%を超える。</p> <p>○生徒が教員に相談できるとした肯定率88%。 「学校のいじめ防止対策」へ生徒肯定率は84% 教員が生徒や保護者の声を聴く姿勢は89%と高い評価である。</p> <p>○学校行事は三大大行事が中止を余儀なくされ、その後の代替行事を行った。行事に対して生徒・教員で肯定率を上げたが、保護者では低下した。</p>	<p>○回答のとおり、規範的な生徒が増えている傾向が感じられる。教員の側にも適切な指導をしていこうとする意識が見える。学校内に止まらず社会に出てマナーと思いをわきまえた市民であるよう、健全に育成する。また、自発的な活力を失わせないことも肝要。</p> <p>○自主自律のもと自治の精神を育てる点が本校らしさであることを、良い形で継続する。</p> <p>○「教育相談」及び「学校生活アンケート」は、保健室や委員会、SC、SSWと有機的に機能している。今後とも生徒が自発的、積極的に相談機能を活用するよう導く。</p> <p>○本校の「人間力」育成の根幹をなす三大大行事と修学旅行ができない中、教員と生徒が協力し工夫した代替行事は、今後の良い参考となった。</p>	<p>○ルールやマナーを守ることは良好と思う。引き続き指導して欲しい。</p> <p>○三大祭が行われず学校生活の充実が失われたかもしれない。その分、危機管理意識、健康への配慮、困難を乗り越える力を得ている。困難をバネにすることは将来に役立つ。</p> <p>○地域や近隣中学校等と合同防犯活動の推進を期待する。</p>	<p>○規範的な生徒が増えている傾向が感じられ、教員の側にも適切な指導をしていこうとする意識が見える。学校内に止まらず社会に出てマナーと思いをわきまえた市民として健全に成長することは大切。一方で校是「自主自律」のもとに、自発的かつ主体的な興味関心が生かせること、また適切な批判精神、人間的な活力を失わせないことも肝要</p> <p>○コロナ禍をとおして行事の中止が余儀なくされたが、本校らしい精神性や文化を継承するとともに、時代に合った進化を模索する。</p> <p>○自粛と規制が多く、時代の閉塞感を学校で発散・消化できない生徒もいる。教育相談機能の門戸を広げ支援体制を一層活性化させる。</p>
キャリア教育	<p>1 キャリア教育の充実による生涯を見据えた進路実現への対応</p> <p>○インターンシップや医歯薬コース等を活用したキャリア教育を充実させるとともに、広く文理にとらわれず個々の進路にあわせ、生涯を見据えた進路を考えさせる。また、進路実現のための具体的な対応策を企画運営する。</p>	<p>○インターンシップや進路の日(大学体験)等の進路行事は中止を余儀なくされた。異例の条件下で生徒の進路活動への肯定率は前年比10%減(65%)。一方で情報提供、進路指導には81%(前年比+4%)の肯定率を示した。</p> <p>○「主体的に将来を考えさせる指導」へ保護者の肯定率は85%で、この4年間ほぼ同数。進路指導への肯定的評価は4年連続上昇している。</p> <p>○例年であればリベラルアーツ講座(前年度55講座開講)等をおして幅広くキャリア形成の機会を得るが、本年度は外部講師等を招く機会がなく、残念であった。医歯薬コースにおいては、必要最低限で外部活動を行った。</p>	<p>○このままコロナ禍による規制が継続した場合の代替的な体験的教育活動の在り方を考えておかなければならない。現実や実態に触れる活動を、どのように担保するかが大きな課題である。</p> <p>○生徒が学校での学習活動への期待度を高めていることと併せて、学校による進路指導に期待度を高めている。進路指導部中心に真摯に応えていることを継続する。</p> <p>○現実や実態に触れる活動を、どのように担保するかが課題。リベラルアーツには保護者の開催要求も強く、リモートによる公開等も検討の必要がある。</p>	<p>○受験体制に入り、心身ともに大変な時期となる。一人一人が夢を実現させるための希望に向かって歩めるよう支えてあげて欲しい。</p> <p>○教科学習以外、今年度の活動は難しいと思うが、次年度以降できることから改善して進んで欲しい。</p>	<p>○キャリア教育に関する校外での活動及び、外部講師を招いての活動が再開できるか否か。幅広い教養教育の実現に向けた「進路の日」や「インターンシップ」については、リモート開催等も含め実現の可能性を探る。可能な限り実践的に取り組む。</p> <p>○リベラルアーツ講座はリモートによる公開等も検討し、生徒、保護者の開催要求に応える工夫を行う。</p>
特色ある教育活動	<p>1 グローバル社会に対応する「幅広い教養教育」の充実</p> <p>○地球的視野での発想、リベラルアーツ等の教養教育を充実させる</p> <p>2 医歯薬コースの一層の充実と併設中学校校交際と連携</p> <p>○担当部、校内委員会を中心に円滑な運営を行う</p>	<p>○グローバル人材の育成は本校の教育目標であり、評価が微増を続けているが、なかなか十分な数値結果に結びついていない。</p> <p>○リベラルアーツ講座、自由研究、医歯薬コースは本校の特色の大きな柱となっている。例年と比較できない社会状況が生み出される中で、比較的安定した評価結果(数値)が与えられていることに気付く。</p> <p>○併設型中高一貫校としての歩みを進め、次年度は中学からの内部進学生が高校3年生まで繋がる。「中高連携」の肯定的評価は教員で前年比16%増(60%)、生徒3年連続38%、保護者62%である。</p>	<p>○「グローバル」という言葉の解釈がまちまちな印象もあり、様々な教育活動の中で含まれている「グローバル性」を意識化するとともに、具体的にグローバル教育を実感できる活動を取り入れる。</p> <p>○コロナ禍の継続も予想される中、リベラルアーツ講座など、ICTの活用、オンライン講義などを実現していく。</p> <p>○中高の合同授業(コラボレーション授業)や部活動体験、授業見学会などを実践している。教員研修等も合同開催しているが、実際の授業でも教員が行き来する場を増やす工夫をする。</p>	<p>○併設中学校との連携は水準を高める必要があるものの、評価数値が大幅に上昇している点は評価できる。</p>	<p>○「東葛が東葛らしくあるために」本校の精神性や文化性を継承しつつ、教育目標に沿った発展的な学校のあり方を検討していく。</p> <p>○併設中学との一貫性をより確かなものとするために、学校評価アンケート等の声を参考するとともに、中高教員の協働と行き来を活性化させる。</p> <p>○医歯薬講座では、高大連携及び地域医療諸機関、医師会との関係を生かし、可能な限り実践的な学びを行う。</p>

